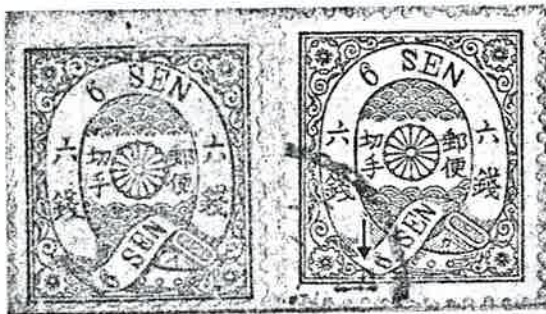


桜切手のニセモノの見わけ方(下)

市田左右一著〈The Cherry Blossom Issue of Japan〉の紹介とともに

小柴 谷 吉



第18図 #21 6銭のホンモノ(左)とニセモノ(右)

- #21 6銭 黒味紫茶 (和紙と洋紙)
#31 6銭 茶だいたい (洋紙)

この2種の切手の図案は同じで、印刷も同じ原版を使い、刷色をかえただけですから、ニセモノの判別は、いっしょにみる必要があります。

引続き市田氏の著作から引用をします。著書はこの切手を、#21 の和紙、つづいて洋紙というように、分けて別々に書いています。まず和紙では――

1. すべての偽物は仮名カであり、この切手は発行されていないからすぐ判る(第18図参照)。
2. 珍しい仮名ヌ及ルには、他の仮名切手から文字を入れ換へた変造切手が稀ではあるが存在するので、珍しい仮名の切手を買う時は注意を要する。
3. 朱消しや墨点を洗って消し、未使用と見せかけたものがある。珍しい未使用切手を購入するときはよく検討して見る必要がある。

たしかにこの通りで、和紙の切手のカナ入りに(カ)はありませんが、実のところ多くのニセモノに、純然と和紙にせて用紙を使ったものは、ほとんどなく、用紙は洋紙ですから、次の洋紙の切手のニセモノとあわせて考えない

といけなんでしょう。

2.と3.の説明は、だいふ収集が進んだ人にたいする警告で、十分に気をくばるべきです。'

つぎに洋紙の説明を引用します。

1. ほとんどの偽物は仮名カである。だから、それ以外の仮名なら先ず真物と考えてもよい。
2. つぎに凸版印刷の偽物を除く。
3. 仮名カの偽物はつぎの異なる構図で偽物と判断できる(第19図)。
4. 仮名ヨには、他の仮名切手の仮名だけを入れ換えたものがあるので特に注意を要する。』

この説明でのポイントを整理しますと、第19図に引用した拡大図(額面アラビア数字6の左側に、細い6本の横線がないものがニセモノ)が、いちばんのきめ手といえます。

カナ(ヨ)の問題は、市価が使用済でも10万円以上するのですから、高級収集家の関心であるといえましょう。

いわゆる「玉六」のニセモノ

同じ図の6銭でも、茶だいたいの方



第19図 #21 6銭の数字部分拡大図

になりますと、もう少し複雑になります。まず引用をお読み下さい。

「(1) (下の) 第5項に述べる偽物以外は、すべての偽物は仮名カと考えてよい。幼稚な偽物が仮名レにあるが、これは凸版なので直ぐわかる。

(2) 仮名カの偽物の内、多くは参考または模造文字入りである。多くの場合、これ等の文字は削り取られているが、秘符A(第20図参照)と版別特徴により摘出できる。

(3) 又仮名カの偽物の大部分は堅いポラス紙であることと、図のような(注・前掲第19図と同じ)異なる図案によってもわかる。

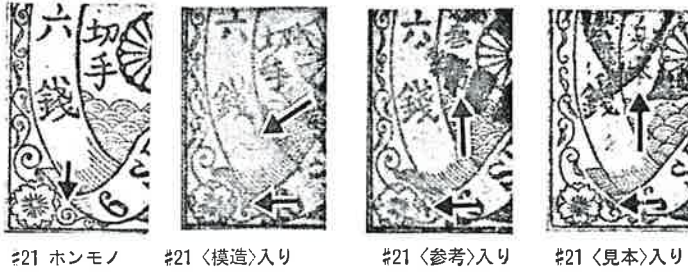
(4) 偽作者はしばしば、他の仮名の真物から、仮名文字と入れ換えて、仮名ヨやラを作っている……。

(5) 上述の偽物以外に、大変巧妙な凹版の偽物が仮名ヌ、ル、タ、ツ及ネに発見されている。これ等の偽物の封筒付は発見されていないから、これ等の偽物を郵便用の偽物と判定するための鍵は、唯消印の真偽にかかっている。しかし、これ等の消印は、総てが真物であるとはいえない……」

引用がながすぎましたが、それは要点だけを引用すると、かえって分らなくなるからです。それにしても第5項など一般の読者には意味をとることが困難だと思います。

初歩者のために整理しますと、

1. 第19図の形をしたカナ(カ)の切手はニセモノです。
2. カナ(レ)のニセモノは平版で、印面全体に線が太く、ていねいに見れば判別できます。
3. カナ(カ)でも、第19図のホンモノの形をしたものがあります。そのとき



は第20図にしめした部分を見て下さい。「見本」「参考」「模造」などの文字が入っていることがおわかりになるでしょう。「模造」の方は額面単位「銭」の下方に薄く入っていますから、ときに削りとられていることもあります。したがってカナ(カ)では、同書に書かれている紋符A（第20図のホンモノの矢印部分）のところで調べることも必要になります。

なお引用では「多くの場合、これらの文字は削り取られている」と書いていますが、それは正しくないようです。「参考」や「見本」の文字は「切手」という文字が入るべきところに入れてあるのですから、とったらかえてよく目立ってしまいます。事実数百枚のニセモノのなかで、削ったものは1枚もみつけたことはありません。

4. 「大変巧妙なニセモノ」についていえば、それらは稀少品で、ホンモノの使用済のカタログ価より高いと考えられますから、むしろ手に入った方が好ましいわけです。しかしわたくしはまだみていませんので、これについては書けません。なお引用文の第5項の意味は、日本語離れしたむずかしさで判読に苦しみます。

#22 10銭 黄味緑 (洋紙, (イ)(ウ)(カ))
まず引用をご覧下さい。



第21図 #22 10銭 ホンモノ(左), ニセモノ(中), ニセモノ(参考)字入(右)

1. 偽物は仮名ロのみに存在する。だから仮名イ及ハは先ず安心である。
2. 仮名ロの偽物の2割位は参考または模造文字が入っている。
3. 仮名ロの他の偽物は、薄いポラス紙だったり、青や灰緑色のようなく異なる刷色なので容易に区別できる。

引用の通りでニセモノはカナ(カ)にしかありません。引用には「模造」の文字入りがあるように書かれていますが筆者の調べでは、まだ未見で、「参考」の文字は〈郵便切手〉の文字の下にたてに入り、多くの場合、消印でかくされています(第21図右参照)。

刷色については、青というのではなく黄味緑、灰味黄緑、黒味緑のものがほとんどニセモノで、ホンモノは黄味緑のごく濃いもので、凹版の調子がひじょうにはっきりしています。

ニセモノは凸版か平板が多く、凹版のものでは第21図のように〈郵便切手〉の字体がちがひ、さらに用紙が薄手の上質紙で、ほとんどニセ消印が押されています。特によくみられるのは第3図(前号p.11)の#189です。

#23 20銭 紫 (洋紙, (ニ)(ホ))

1. 偽物は仮名ホにのみ存在し、仮名ニならば先ず真物である。



第22図 #23 20銭 ニセモノ

2. 仮名ホの偽造はほとんど参考文字がある。
3. 偽物の用紙は硬いポラス紙で真物は常に厚い無地洋紙である。少し補足しますと、ニセモノは戦後わが国で作られた平板の「模造品」を除いて、戦前のものにはすべて第22図のように「参考」の文字が右書きで分けて1ヵ所ずつ小さく入っています。ひじょうに薄いものもありますが、ていねいに見れば発見できます。

#24 30銭 灰黒 (洋紙, (イ))

1. 図(注・この稿の前号第2図に引用)に示すような図案を持つものは偽物である。
2. 偽物には参考文字が入っている
3. “郵便用偽物”は…0.14³位の滑らかな厚紙に印刷され、偽消印や、特別な深い彫りで区別できる。

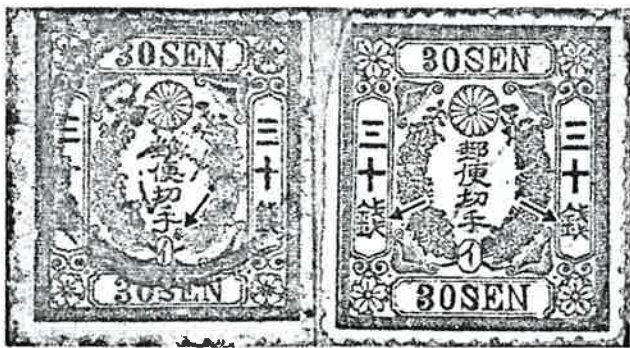
上の引用の〈参考〉の文字は第23図(次ページ)のように入っています。すべてに入っているわけではなく、同図右のような「銭」の字が粗末な字体のもので〈参考〉文字のないものもあります。

第3項に書かれているニセモノは同書の第45図から引用しますが、ニセ消



第24図 (引用書第45図より複写)

第
25
図



右は「銭」の字体がそまつ
左は「参考」文字入り

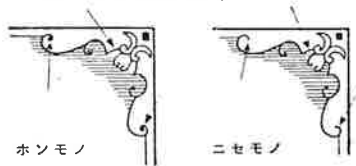
印と、〈郵便切手〉の字体で区別できます（第24図）。

#25 12銭 うすいもも (イ) (ロ) (ハ)

1. 仮名ロ及ハには偽物がない。
2. 仮名イの偽物の大半は参考又は模造文字が入っている。
3. 残りの偽物は、凸版印刷、色調、偽消印および偽物特有のポーラス紙などで区別できる。」

いいかえますと、ニセモノはカナ(イ)にしかなく、(イ)のほとんどは〈参考〉または〈模造〉の文字が入っているわけです。具体的には第25図の切手がニセの大半の原形とみられ、鳥の首の両側に〈考 参〉とわけて入っており、これがうすく読めないようなものもあります。〈模造〉も同じように、同じ位置に入っています。

もっと分りやすいのは、同書の英文には明記されている、第26図の特徴でみることです。切手右隅のかざり模様の端末がホンモノは太くまるまり、ニセモノは細いまます。



ホンモノ

ニセモノ

#26 15銭 灰紫 (イ) (ロ) (ハ)

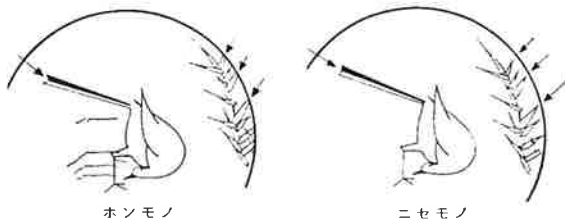
1. 偽物は仮名イにのみ存在する。仮名ロ及ハの切手は一応真物と見てよい。
2. 大部分の偽物は参考文字があり又菊花紋章が薄彫りである。
3. 他の偽物では、図に示すような微妙な秘符が入っていない。(注・必要ないので図は省略)
4. 大部分の偽物は第27図(引用)に示すような鳥の尾と葉模様と異った図案を持っている。」

以上の引用で、ニセモノは排除できますが、分りやすく書き直します。

1. まずカナ(イ)以外、つまり(ロ) (ハ)は除きます。いままでのところ日本製の平版印刷によるチャチな「模造」以外に、(ロ) (ハ)のニセはありません。
2. つぎに菊花紋章をみて、左右の〈郵便切手〉より、ずっと薄い色、あるいはごく細い線はニセモノです。
3. それらの多く

←第26図 印面右隅の花模様の端末が相違

第27図→鳥の尾の末端と右の葉の先端の部分相違



ホンモノ

ニセモノ

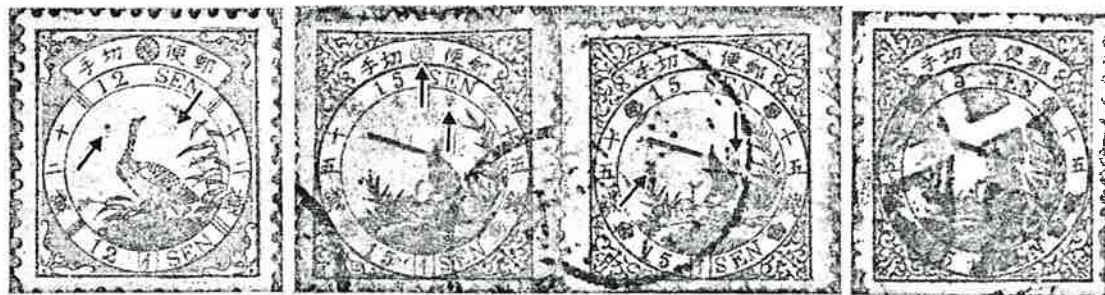
には、印面上方の額面表示「15」の真下に〈考〉、「SEN」の下に〈参〉の字が入っています。そこには鳥の体の右に〈参〉の字があります（第28図）。それでもみつからぬときは、字が削られているので、第27図で合わせてみるとよいでしょう。

4. 菊の紋章のこい図のときのニセモノは、鳥の体の左に〈見本〉の文字がたてに入ったもの、または第27図にあわせてみるとわかります。
5. 初歩者にとって困るのは、ホンモノから、まったくそっくり写真製版した平版印刷のもので、上の図のそれぞれの特徴をきちんと正しくそなえているからです。用紙がちがうので区別できるのですが、どんな用紙がホンモノか、ニセモノか分らぬときの区別は、これらはすべてニセ消印つきですから、それをカギにして1つは第3図(前号p.11)の#189,あるいは〈新日本切手カタログ〉1967年版p.128の図版, #100や#104に似て白抜きが〈大〉の字にみえるようなものに注意します(第29図)。

#27 45銭 暗い紅 (イ) (ロ) (ハ)

1. 偽物は仮名イ及ハにのみ存在する。
2. これ等すべての偽物は図(第30図に引用、次ページ)に示すような異った図案である。」

上記の記述でわかりますが、もう少



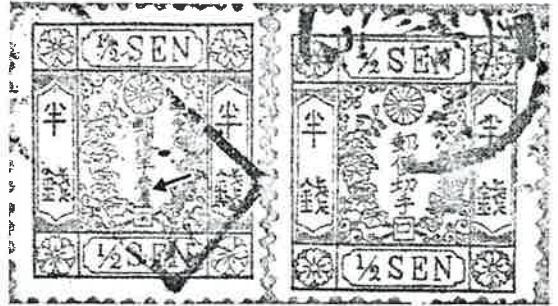
第25図 #25 12銭 〈参考〉文字入り

第28図 #26 15銭 いずれもニセモノ、矢印の先を注意

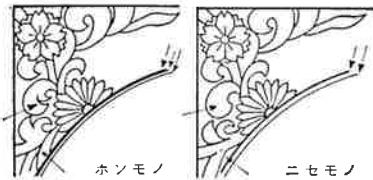
第29図 ニセ切手とニセ消印



第31図 #27 45銭 ニセモノ、右は「郵」の字の彫刻エラー



第33図 #28 半銭 ニセモノ、左は<参考>文字入り



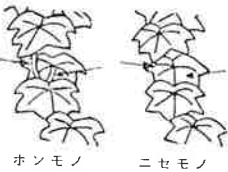
第30図

し補足して説明します。

1. ニセモノはカナ(イ)と(イ)にあり、(イ)には見つかっていません。
2. カナ(イ)のニセモノで、凸版または平版のものは、絵が粗雑で、第30図のどちらの特徴も持っていません。
3. カナ(イ)の凹版で作ったニセモノには、すべて鳥の体の左右にく<考 参>の文字がわけて入り(第31図左)、左上部の特徴は第30図とちがいます。
4. カナ(イ)のニセモノにく<参考>文字入りはありません。ニセの特徴は上の第30図で見破ることができます。またよく見られるニセモノには「郵便切手」の<郵>のつくり「垂」のたての2本が欠けている(第31図右)、わかりやすい特徴があります。

#28 半銭 灰黒 (イ)(イ)(イ)

- (1) 偽物の半数は仮名イであり、この仮名は改色にないからわかる。
- (2) 仮名ロの偽物は図(第32図に引用)に示すような相違点がある。なお仮名ロの偽物の半数は参考または模造文字入りである。
- (3) ごく少ないが、仮名ハの偽物もあるが、図(第32図)により発見できる。



第32図 桐の葉の相違

この切手のカナ(イ)のニセモノは、前に出た#17の切手のニセモノと版が同じで、刷色を灰黒にかえたものです。

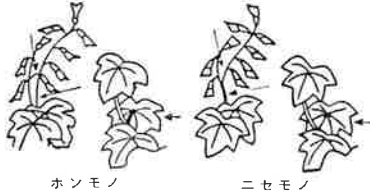
カナ(イ)のニセモノの<参考>文字はたてに(第33図)、<模造>は右書きで横に(第1図左上)、それぞれ「郵便切手」の文字の下端に入っています。

そのような文字がなく、カナ(イ)で、平版や凸版印刷のそまつなものは、第32図で判別できます。

なお、ひじょうに巧妙に作られた(イ)および(イ)のニセモノがあり、いろいろな点でホンモノとそっくりで、用紙がうすいことから、ニセモノらしく感じさせますが、わたくしもいままな、調べているところです。

#29 1銭 茶 (カナ(イ)~(イ))

- (1) 多くの偽物には参考及模造の文字が入っている。
- (2) 残りの偽物には、桐の花及葉に図(第34図に引用)に示すような特徴がある。



第34図



第35図 #29 1銭茶 ニセモノ



第36図 #32 10銭 ニセモノ

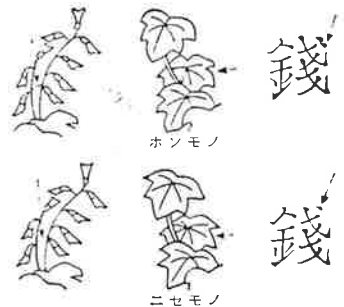
- (3) 凸版印刷は皆偽物である。
- (4) 偽作者は時々他の仮名の切手を変造して、珍らしい仮名を作る。もう少し分類して説明しますと、
 1. ニセモノはカナ(イ)(イ)(イ)および、切手のない(子)にあります(第35図)。
 2. <参考>などの文字入りは(イ)だけにしかみられません。具体的にその入れ方に3種あり、
 - a. 「郵」の左右に分け小さく<参考>と入ったもの。
 - b. 「切手」の下に、たて書きで<参考>と入ったもの
 - c. 「切手」の下に右書きで<造模>と入ったもの——
 3. ニセモノのすべてが第34図の特徴でさがし出せます。

#32 10銭 群青 (カナ(イ)(イ))

- (1) 偽物は仮名ニのみに存在する。
 - (2) 偽物の半数は参考文字が入っている。
 - (3) 残りの偽物は、灰青色で、常に堅いポラス紙に印刷されている
- 上記の引用を、もっと整理しますと、
1. ニセモノはすべて灰味青、こい青ですが、ホンモノはすべて美しい群青ですから、区別できます。
 2. <参考>文字の入っている位置は上記と同じように3つあります。
 - a. 「便」の左右に1字ずつ入る。
 - b. 「手」の下に右読みで入る。
 - c. 「手」の下にたて書きで入る。なお、たて書きの実に美しい未使用(?)を写真で紹介しておきます(第36図)。



第37図 #33 20銭 赤 ホンモノ (左), ニセモノ (右の2枚)



第39図 1銭ブッチの部分拡大図

#33 20銭 紅 (カナ付)

- 「(1) 一部の偽物は参考または模造文字入りである。
 (2) 他のものは、堅いポーラス紙に印刷されているか、または凸版印刷なので判定出来る。」

やや具体性を欠きますが、このニセモノは印面図案でホンモノと区別する決定的な相違をもっていません。ニセモノのあるものは第37図のように、花弁の先きの形の異なるものもあります。

引用に「参考……」とありますが、わたくしの調べた限りでは、「手」の左右に「造 模」と入ったものはあっても、〈参考〉の字入りはまだ見ておりません。

ニセモノの多くは平版か凸版で、凹版のものは、紙のすき穴がはっきり見える薄手の用紙、あるいは白い堅目の上質紙に刷られています。

#34 30銭 紫 (カナ付)(≡)

- 「(1) ある偽物は仮名なしであったり参考または模造文字が入っている
 (2) ほとんどの模造は、この切手にはない仮名カである。
 (3) 仮名口の偽物も多くあるが(英文は a few forgeries), ほとんど凸版印刷である。」



第38図 #34 30銭 紫 ホンモノ (左), ニセモノ (右の2枚)

この引用を、もっと正確に表現しなおしますと、

1. カナの入る位置が枝の交叉だけになっている(第38図)ものは、すべてニセモノで、そのすべてに交叉の上に「模造」の字が右書きで入っています。
2. カナ付のものは、もちろんそのような切手がないからニセモノです。
3. 上記の両方とも、ニセ消印でカナ位置を見えなくしてあるものも、よくあります(第38図右)。このときは図案四隅の桜の花の相異で区別できます。
4. カナ付のニセモノは、平版印刷にありますが、あまり多くなく、線が太いことでも判別できます。

#35 1銭 うす茶 (ブッチ)

- 「(1) 一部の偽物は、参考又は模造文字入りである。
 (2) 大部分の偽物は図の特徴がある
 (3) 偽物には堅いポーラス紙がある
 (4) 図の様な巧妙な偽物がある。」
- わたくしが調べた範囲では、この切手のニセモノはあまり多くありません。〈参考〉文字入りは、まだ見ていません。〈模造〉文字入りは「手」の下に右書きで入っています。

上記(3)で、ニセモノには……とあり

ますが、これは「ニセモノはみな堅い薄手、あるいは厚い、ポーラス紙を使っている」とすべきでしょう。

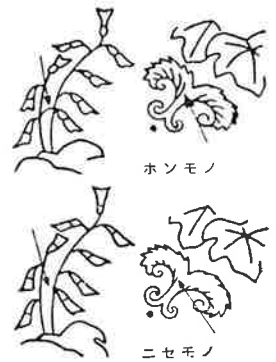
上記(2)のために、図(第39図に引用)がかかざられています、わたくしの調べでは図に正しく該当するものがないので、同書はなにか間違いでないかと考えられます。

ホンモノとニセモノの区別は、刷色のシェードで、はっきりできます。文章では書きにくいので、次の機会に安定した他のまったく同じ色の切手を選んで例として説明します。安い切手ではありませんから、まず慎重に調べることが大切です。

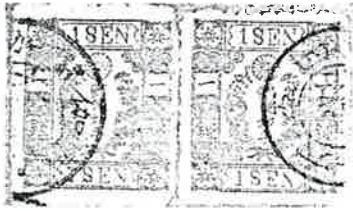
#37 1銭 うすい茶

- 「(1) 偽物の多くは参考文字入りである。
 (2) 他のものは図(第40図に引用)のような特徴があるから直ぐ判る。」
- (1)でいう〈参考〉字入りは実際にはひじょうに少なく、「郵」の左右に右書きで分けて〈考参〉と入り、ニセ消印は二重丸がほとんどです。

第40図の特徴のうち、左下方に入っている草の模様には、ホンモノと同じのもあり、枝の特徴をまず見る方がよ



第40図 #37 1銭の部分拡大図



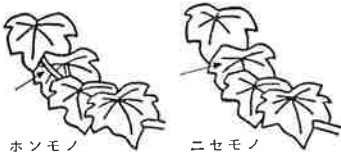
第41図 ホンモノへのニセ消印

いでしょう。

なお、この切手にはホンモノに、ニセ消印をしたもの、例えば第41図のように、〈加賀大聖寺〉や〈東京二重丸の小型〉などがあります。

28 2銭黄

「図にあるような(第42図に引用)異なる図案によって、偽物は容易に見つけられる。また、その内のあるものには薄く参考文字が印刷されている。」



第42図 28 2銭黄の桐の葉部分拡大

ニセモノは第42図で「容易に」わかるとされますが、ニセモノのほとんどがそのような特徴をもっているのは事実でも、図のホンモノのほうが、この図のように簡単にみえないので、初歩の方は判断に苦しむでしょう。

この切手でも、紙質とシニードが決定的に、すぐ判断できる要素になっています。紙はいままでにも出てきた、すき目の荒いポラス紙で、刷色はホンモノはとてもこい黄(だいたい味をおびたものもある)であるのに、ニセモノはもっと淡く、あるいは暗いだいたい黄のもです(第43図)。

39 5銭緑

「(1) 偽物の約3分の1は参考または模造文字入りである。」

(2) 残りの偽物は巾寸法がやや真物より小さい。すなわち偽物は19.0~19.5ミリに対して真物は19.5~



第44図 39 5銭緑中央部と「銭」の拡大

20ミリとなっている。

(3) また多くの偽物は図(第44図)のような特徴を持っている。」

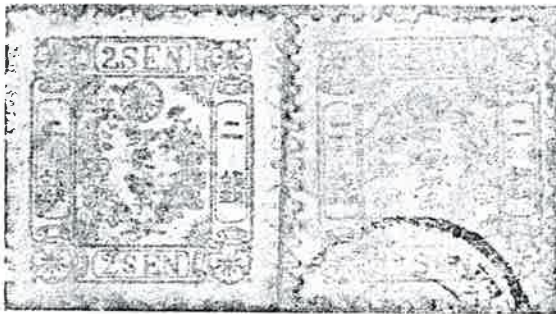
少し説明をつけ加えますと、

1. (1)の文字の、〈参考〉はリボンの上方「郵便切手」(右型)につづいて入っています。〈模造〉の字はリボン両側の「銭」の下の、右読みで1字ずつ分けて入っています(第45図)。
2. そのような文字の入っていないニセモノは、第44図の特徴をもっています。

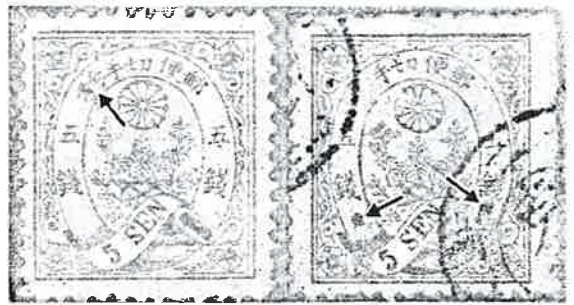
むすび

以上をもって、市田左右一氏の著作の紹介をかね、同書のなかからニセモノに関する記事を引用し、それを補足する形で、「桜切手のニセモノの見わけ方」を説明しました。

紹介と引用をする関係から、表現その他で不統一があったことをお詫しねがいます。また最初の(上)では編集部との連絡の不十分さから、写真図版が少なく、分りにくかったのではないかと心配しています。なお記述の誤りなど、多くの皆さんにご指摘いただければ幸いです。(1966.9.30)



第43図 38 2銭(リボン)ニセモノの一例



第45図 39 5銭緑〈見本〉(左)、〈模造〉(右)入り